

第2学年「生活」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 身近な人々、社会、自然環境に対する関心が高く、意欲的に活動に取り組むことができる。
- ねらいにそったよい気づきができてきており、生活科の知識及び技能の基礎が身に付いている児童が多い。
- 課題** ▼ 自然物を利用した遊びや遊びに使うものを工夫したり、動植物の育つ場所、家庭における自分のできることを考えたりすることなど、思考力、判断力、表現力等の基礎の面で個人差が見られる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 身近な人々や自然、地域社会などのよさや特徴、それらとの関わりに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付ける力
- ◇ 集団の中での自分の存在に気づき、互いの違いや個性を認め合いながら自分生活や自分自身について考え、表現する力
- ◇ 学校生活や家庭生活の中で、様々な関心や意欲を高め、生活を豊かにしようとする態度を養う力

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 植物を育てる体験を通して、愛着をもったり、責任感をもって大切にお世話したりできるようにする。
- 1年生や他学年との交流を通して、集団の一員であることを認識し、2年生としての自覚を高める。

言語活動の工夫

- 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、出来るようになったことが増えたことに自信をもち支えてくれている人々に感謝の気持ちを伝えることができる。

ICT活用の工夫

- タブレットを活用して、写真や短い言葉で記録に残したり、情報収集をしたりして、発表ノートやシンプルプレゼン等で、分かったことが共有できるようにする。

課題解決力育成の工夫

- 校内の豊かな自然や生き物に触れる活動を通して、四季の変化や、季節によって生活の様子が変わること気付けるようにする。
- 生活科見学を通して、地域の人々や環境などに親しみをもち、適切に接したり、安全に生活したりできるようにする。

達成目標

- ☐ 集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
- ☐ 自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。
- ☐ 自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活する。